

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070100534
法人名	有限会社 シライシップ
事業所名	グループホーム シライシップ
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市門司区柳町1丁目2番4号 (電話) 093-381-0013

評価機関名	株式会社アーバンマトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成20年12月16日

【情報提供票より】(平成20年10月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	11 人	常勤	3人, 非常勤 8人, 常勤換算 4.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000円	その他の経費(月額)	家賃に光熱費含む	
敷金	有( )円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(250,000円)	有りの場合 償却の有無	有(3年間)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,650円			

(4) 利用者の概要(10月16日現在)

利用者人数	5名	男性	2名	女性	3名
要介護1	0名	要介護2		3名	
要介護3	0名	要介護4		2名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 85歳	最低	79歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中村内科医院 / につた歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム シライシップは、「住み慣れた街でいつまでも暮らしたい」を理念として掲げ、日々のケアを行っている。立地環境は、交通の利便性が高い街なかに位置し、近くには昔からの市場があり、入居者のこれまでの暮らしを大切に市場での買い物も日々の日課として取り入れている。家族は、家庭的で温かい雰囲気の中で過ごすことができ、個別に細やかなケアやサービス提供に努めている点で安心感があり、また、家族の悩みや相談を快く受けていただけるといった点で高い評価を得ている。入居定員は6人とし、少数であることを活かし、短時間でも行きたい時に散歩に出かけたりできるように支援している。また、地域との関係も良好な関係を築いており、今後は更に地域密着型サービスとしての役割を果たしていくことが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、地域密着型サービスとしての理念、日々のその人らしい暮らしに関して、今後の取り組みを期待したい項目として挙がっている。改善項目に関しては評価結果を活かし改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義や目的を職員間で共有し理解し、自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回の運営推進会議には(自治会長・民生委員・地域包括支援センター・職員・ホーム代表・管理者・職員・入居者が参加)により、一方的なホームの報告会にならないように、参加した委員の方々から意見や質問・要望を聞き、サービスの質の向上に繋げる取り組みをしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の面会時に日常の様子などを報告している。また、行事ごとの写真をホームの壁に貼っており、それを見ながらホームでの暮らしびりを報告している。金銭出納帳のチェックもその時をお願いしている。家族には、抱える悩みや相談なども快く受けていただけるといった点で高い評価を得ている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の方々には常日頃からあいさつを心がけ、緊急時などにおいても協力要請ができる関係を築いている。地域の行事やイベントには積極的に参加し交流を高めるようにしている。毎日の食材の買出しに入居者と共に近所の市場に出かけ、顔なじみの関係を築いている。自治会行事の参加は地域交流記録として写真と共に残っており、地域の協力関係も年々高まっており、地域との良好な関係を築いている。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた街でいつまでも暮らし続ける」ことを理念に“気くばり・目くばり・心くばり・一人ひとりの思い”を大切に対応し、地域で普通の暮らしができるようにホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの玄関に掲示し、毎朝の申し送り時やミーティングで職員全員で唱和し確認し、常に立ちもどる原点とし理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方々には常日頃からあいさつを心がけ、緊急時などにおいても協力要請ができる関係を築いている。地域の行事やイベントには積極的に参加し交流を高めるようにしている。毎日の食材の買出しに入居者と共に近所の市場に出かけ、顔なじみの関係を築いている。自治会行事の参加は地域交流記録として写真と共に残っており、地域の協力関係も年々高まっており、地域との良好な関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的を職員間で共有し理解している。前回の評価を活かして改善に向けた取り組みを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議には(自治会長・民生委員・地域包括支援センター・職員・ホーム代表・管理者・職員・入居者が参加)により、一方的なホームの報告会にならないように、参加した委員の方々から意見や質問・要望を聞き、サービスの質の向上に繋げる取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター・生活保護課ケースワーカー・権利擁護事業ライトなどと連携し情報交換を行っている。困ったことや分からない点があれば積極的に行政に相談にいきたいと考えている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関して、管理者・職員は内外の研修に参加し学んでいる。また、それぞれが学んできたことに関しては報告会を行っている。現在、入居者の中で権利擁護を利用されている方がいるので必要性については全職員が理解している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に日常の様子などを報告し、電話でも状況に応じて連絡する体制を整えている。また、行事ごとの写真をホームの壁に貼っており、それを見ながらホームでの暮らしぶりの報告も行っている。金銭出納帳のチェックもその時お願いしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見を自由に言ってもらえる雰囲気づくりを大切にしている。苦情相談・窓口担当者も決めている。家族には、抱える悩みや相談なども快く受け取ってもらえるといった点で高い評価を得ている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ数年は職員の離職・異動はない。新しい職員が入社した場合は、なじみの関係ができるまで入居者にきちんと紹介し、入居者からホームのことを教えていただくなど、徐々になじみの関係を築いていけるように支援している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員に対しても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	募集・採用に当たっては、性別・年齢などで排除するようなことは行っていない。本人の意欲を尊重した採用を心がけている。意欲をもって働けるように休暇の希望の対応や、自分の目標達成や自己実現ができるようにサポートを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	内部・外部の研修には積極的に参加し、人権問題に取り組み、定期的に勉強会を行っている。身体拘束ガイドライン・虐待防止マニュアルも作成し、職員で周知徹底している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員のスキルアップを高めるために、個々の職員の能力に応じて、研修や資格取得に向けてのバックアップをしていきたいと考えている。内部の研修及び外部の研修にも積極的に参加を促している。できるだけ多くの研修を受けられるように促し支援している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	ホームの設立当初からグループホーム協議会に加入し、定期的な研修会に参加している。他のグループホームの見学も実施し、学んだことを研修会で発表するなど、グループホームの発展に意欲的に取り組んでいる。また、他のグループホームと情報交換を行うなど交流も図っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には、本人・家族の現況を把握し、安心していただけるように事前に体験や宿泊の提案をしている。入居者・家族との信頼関係を築くために要望や不安などを聴き、少しでも、ホームになじんでいただくため、事前に体験や宿泊の提案をしている。入居者・家族が他の入居者との交流を図り、納得した上で入居できるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々、職員は、入居者と生活を共にしながら喜びや寂しさに寄りそうケアを心がけ、互いに支えあう関係を大切にしている。また、入居者の得意分野で能力を発揮できるように支援している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>に</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中での会話や接し方から気づいたことをミーティングや申し送りの中で入居者本人の視点で話し合い、日々の改善に取り組んでいる。また、入居者本人より、これまでの暮らしぶりを語っていただく時間を大切に、家族からも情報を得るように取り組み、入居者の思いや意向にそった取り組みができるように支援している。		
<b>や</b>					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意思を尊重し、職員の意見を取り入れ、本人本位の介護計画になることを目標に作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、日々の状況・状態に応じて見直しを行っている。日々のケアの中で、入居者の言葉や表情・様子など変化が分かるように記録を工夫し、入居者の日々の変化に着目し、より本人本位の介護計画になるように見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域密着型サービスの主旨をふまえ、知人の家や行きつけの店など、これまでの暮らしの継続ができるように支援している。また、その他のサービスの利用なども本人や家族の希望に合わせて柔軟に対応できるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に受診できるように毎月1回職員が受診をサポートしている。また、月2回の協力医療機関の往診もあり、助言をいただき、適切な医療が受けられるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	運営推進会議で「看取りの指針」を作成しており、本人・家族が安心して納得が得られるよう話し合いを重ね、医療関係者との連携のもと最善の方法がとれる体制を整えている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	常日頃から、入居者の誇りを損なうことがないように十分注意を払い、ミーティングなどでも、日頃の言葉かけに注意を払うように周知徹底している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。朝の着替えの時は自分の着たい服を自己決定により着てもらい、入居者一人ひとりのペースに職員が基本的に合わせるように対応している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみになるように、食材の買出しから、調理・後片づけまで職員と入居者が一緒に行っている。一連の準備・後片づけまで、その人に応じた役割を果たしていただくように支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴の時間は決めているが、入居者の体調や希望に応じて柔軟に対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの習慣や得意分野を活かし、花壇で花や野菜を育て鑑賞と収穫を楽しむなど、暮らしの中で入居者が生き生きと過ごすことができる時間を大切に支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	短時間でも外気にふれ、気分転換できるように戸外に出るように支援している。また、普段行けない場所も要望があれば適宜実現できるように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ドアの開閉時には鈴が鳴るようにしており、職員は常に入居者を見守りやすい位置にあり、様子を把握し、鍵をかけないケアを実践している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署のもとで年に2回、地域の方々の協力を得て、非常災害訓練を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好を取り入れ、献立を作成している。カロリー・塩分にも気を配り、バランスの良い食事を提供している。食事量や水分量はチェックし記録している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は季節感を感じていただけるように飾りつけを工夫するなど、家庭的な雰囲気の中で居心地よく過ごせる環境づくりを行っている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は、使い慣れた日用品や写真・好みの物を持ち込み、自宅と同様に、これまでの暮らしが継続できるように入居者の住まいとして、個性ある居室の工夫がある。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			